

藤田宏

句集

# 長城

句集の題名である長城は

言うまでもなく万里の長城で、

中でも八達嶺長城の

壮大な風景に

妻は心から満足し、

涼風の吹く長城の通路を

かなり歩いた姿が

はつきりと思い出されます。

私にとって長城は中国の旅の

よき思い出の地であり、

亡き妻との

思い出の地でもあります。

〔あじがきより〕



北<sup>き</sup>風<sup>た</sup>鳴つて廃船に小さき部屋一つ

有刺鉄線一端にまで霜の花

キヤタピラー杉菜の緑噛みいこふ

薄闇の巢に一こゑを親燕

手  
の  
と  
ど  
く  
か  
ぎ  
り  
は  
熱  
し  
青  
李

昇  
降  
機  
け  
ぶ  
る  
氷  
柱  
載  
せ  
来  
る

昼  
寝  
覚  
め  
韓  
の  
国  
か  
ら  
白  
き  
雲

乗  
初  
の  
吊  
革  
の  
み  
な  
躍  
り  
初  
め

冬深しきのふの崖の今日も立ち

火事跡の木の枝に懸け梅雨の傘

アメリカにて

鳥と目覚む核多き国の春暁に

無敵なりかがやき走る裸の児

鎖  
樋  
蓼  
咲  
く  
中  
に  
沈  
み  
け  
り

莊  
巖  
に  
象  
一  
頭  
や  
西  
日  
中

吾が仰ぎ妻の見つむる冬木の芽

巢燕のうちの一羽は眠れる

見  
尽  
せ  
し  
冬  
木  
を  
撫  
で  
て  
退  
院  
す

秋  
の  
夜  
の  
バ  
ス  
に  
白  
塗  
り  
ち  
ん  
ど  
ん  
屋

子雀の尾は日盛の土を擦り

運動会転びたる児をだれも見

核の生む灯は青ざめて夜の桜

木の葉雨ナースゆきつつ伸びをせり

頬熱きかなコスモスに分け入れば

麦稈帽積みし一つを剥いで売る

つ  
ゆ  
け  
さ  
や  
勤  
務  
二  
人  
の  
考  
古  
館

水  
す  
こ  
し  
飲  
み  
雪  
中  
の  
鴉  
飛  
ぶ

まくなぎのここを先途とするごとし

夜半の桜軍装の人ら来て立てり

風死してこれより真の百日紅

妻病死

病窓に遠き紅葉を妻と見し

滝  
落  
す  
ご  
と  
く  
は  
く  
れ  
ん  
崩  
れ  
け  
り

シ  
ャ  
ツ  
の  
胸  
に  
闘  
魂  
と  
あ  
り  
昼  
寝  
せ  
り

アメリカ

旅ひとり日焼しづかに始まりぬ

輪切りして曝す「回天」炎天に

稲架解きて竹ばらばらに転がれり

冬耕の仕舞の土を手で均し

祐天寺楠本憲吉氏墓所

語りたく墓の辺に置く冬帽子

春眠の尾にぼろぼろの兵は哭き

夏  
櫛  
童  
ひ  
と  
り  
も  
降  
り  
て  
来  
ず

象  
老  
い  
て  
炎  
天  
に  
波  
打  
つ  
て  
を  
り

からからと櫛を打つて捕虫網

奥多摩御岳溪谷

秋川の真中を奔る水の束

亡き人の生誕の日や冬日和

夏めくや換へし電球生き生きと

墓  
に  
な  
ほ  
仏  
ひ  
と  
り  
や  
梅  
雨  
に  
入  
る



句集 長城 ちょうじょう

平成十九年七月二十五日 発行

著者 藤田 宏

発行者 大山基利

発行所 株式会社 文學の森

〒一六九〇〇七五

東京都新宿区高田馬場二ー二ー田島ビル八階

tel 03-5292-9188 fax 03-5292-9199

e-mail mori@bungak.com

ホームページ <http://www.bungak.com>

印刷・製本 大村俊雄

©Hiroshi Fujita 2007, Printed in Japan

ISBN978-4-86173-605-6 C0092

落丁・乱丁本はお取替えいたしません。

